

抑止力では戦争なくせない

予備校生

(愛知県 19)

安全保障関連法に、いまでも反対だ。祖父母や、広島、長崎の被爆者から戦争体験を聞いたからだ。武力で相手を牽制し抑止するやり方では戦争をなくすことは永遠にできないと思う。

もしあなたが銃を持っていたら、相手に銃口を向けたら、相手も同じことをするだろう。安保法は、銃口を突きつけ合うことと同じではないか。

日本は専守防衛のままでいいと思う。攻撃されたら、個別的自衛権で対応すればいい。また日本は「攻めない国」だから、中東をはじめ多くの国と友好関係を保てたと思う。危険な場所でも、日本人だから攻撃されないこともたくさんあった。

しかし安保法成立でよい関係だった国々は離れ、日本人がターゲットになる日も近づいたのではないか。こんな本末転倒な法を私は許すことができない。

障害ある娘のため声あげる

無職

(大阪府 74)

47歳の次女は重度身体障害者です。私は人々の命を奪い、障害者をつくりだす戦争への道を開く健全保障法制「戦争法」を絶対に許しません。反対集会に車いすで出かけて声をあげた次女も同様です。

障害者の権利運動の中でお世話になった障害者の方々に、戦前、戦中、戦後を生き抜いた人たちがいます。戦争をする国がどれだけ恐ろしく、人間の心身を破壊させるのか。障害者はお国の役に立たない「非国民」「米くい虫」と、毎日のようにののしられたそうです。あの苦しみの日からたった70

年しか経っていないにもかかわらず、までも戦争に踏み出す道を私の国は突き進もうとしています。

障害者の権利が認められるのは戦争のない平和な社会があつてこそです。政権は防衛費を拡大する一方で、社会保障費を抑制しようとする政策をとっています。武力で他国を威圧する方法は、戦前の軍国主義を連想させ、歴史の逆行に見えます。国民の幸せ、障害者の権利保障とは相いれませぬ。

毎月第1金曜にJR東岸和田駅前反原発、戦争法反対を訴えるなどしてきました。娘の生きる権利、基本的人権を守るために、めげずに声を上げていく覚悟です。

国会を自らつぶす気なのか

農業

(京都府 63)

安保法制に反対するため国会前には3回行った。安保法制は日本国民のためでなく、自衛隊の活動をアメリカの軍事行動と一体化させるための法律であり、まさしく戦争法である。絶対に許せない。そしてその法律の成立過程も「国会の死」ともいえる惨状だった。

参院特別委員会での「採決」は総括質疑なし、横浜での地方公聴会の報告もなし。いつ採決したのか分からないあの場面は、会議録未定稿では「議場騒然、聴取不能」だという。本会議では与党が動議を出して、発言時間を1人15分に

制限。さらに報道によると、共産党議員が明らかにした防衛省の内部文書の入手に関して、自民党議員が「(政府は)どのように情報が流出したか、情報を渡した側はもちろん、手に入れた側にも違法行為がなかったか、しっかりと調査を」との旨を要求して牽制した。

これらの言動が、自由な議論と議会の調査権を抑え込むという、国会と議員の活動を自ら否定することであると気づかないのである。行政権をチェックする国会の機能を投げ捨て、国会を自らつぶしてしまふような、与党議員の振るまいは、主権者の一人として決して許せるものではない。

「観客席」から立ち上がる

会社員

(東京都 38)

私は安全保障関連法案に反対するため、デモに参加した。学生団体「SEALDs」の活動に触発されたのが理由だ。数多くのスピーチの中で印象に残ったのは、18日夜、奥田愛基さんが発した「この国に観客席なんてない」という言葉だった。

思えば、長年にわたる大人の政治的無関心の結果生まれたのがこの法律なのではないか。安倍政権は、憲法違反と指摘される法案を、議事録の未定稿に「議場騒然、聴取不能」と記される異常な形で強行採決し

た。この法律により、近い

将来、学費免除と引き換えなどという経済的理由から自衛隊に入り、海外での軍事行動に巻き込まれる若者が出てくるかもしれない。

大人たちは、自分たちの政治的無関心のツケを若者に払わせようとしているのだ。安保法案をめぐる反対の世論が盛り上がりを見せたが、友人知人の中には事態を傍観している人が少なくなく、情けなく思った。

今こそ「観客席」を離れ、自ら思考し、立憲主義を取り戻すための、若者たちを守るための行動を起こすべきだ。すべての大人たちに強く訴えたい。